

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和四年十一月度 入賞句一覧 投句数 二千七百一句



特選

長町 誠司 選

芭蕉像青葉のかさと石のかさ

大垣市

境 小太朗（小六）

「奥の細道むすびの地記念館」の横を流れる水門川。そのほとり、船町港に芭蕉の像があります。こ
は一年を通し各種のイベントが催され、行き交う人々を芭蕉像はあたたかく迎えてくれます。こ
また市内の各学校から見学や校外学習のコースとしても利用されています。
作者は桜の木が、日差しを防ぐように芭蕉像の上にあるのを発見しました。それはまるで青葉の
笠のようです。この発見が「青葉のかさと石のかさ」という発見につながりました。地元愛さえ感じ取
れる一句です。

身に入むと思う程君恋しくなる

加茂郡川辺町

羽根 美葉（中三）

「身に入む」は秋の季語。秋冷がしみじみと感じられることをいいます。古文や古語辞典では、「身
に染（泌）む」と表現されますが、俳句の季語としては「入」の字が使われます。
さて、中学生の作者は想い人がいるようですね。秋の冷気を感じるたびに、その人のことが恋しくな
るといのです。「身に入む」はへ感覚的な響きが強い語なので、しみじみ君を思うという、作者の
気持とびつたり合う季語です。
作者は中学三年生。恋愛も、目の前に迫る受験も、うまくいくことを願っています。

クリスマスサンタがねつをだしちやったよ

大垣市

増元 龍（小三）

作者はサンタクロースの正体を知っているようです。当然、熱を出したサンタクロースのこ
とは心配に違いないのですが、楽しみにしていたプレゼントも、ちゃんと貰えるのか心配な様
子です。俳句は五七五音なのですが、下五を六音にした「だしちやったよ」の終助詞「よ」の
効果で、困惑している様子がよく伝わります。小学三年生の作者に、プレゼントは無事届いた
のでしょうか。

秀逸

妹がじつと見つめるマスカット

大垣市

伊藤 芭菜（小六）

つゆぞらをみたらみらいがみえてくる

大垣市

やました るい（小六）

君が言う「月が綺麗」は何の意味

加茂郡川辺町

羽根 美葉（中三）

いつもより夕日輝く赤とんぼ

加茂郡川辺町

今井 愛子（中三）

天高し今無き人も暮らしてる

大垣市

早水 才人（小六）

ひがんばないえにいたらちやうぞ

大垣市

のなか さくや（小二）

夜ご飯たたみの上で秋深し

大垣市

南瀬 杏奈（小四）

大根をぬいてびつくりミミズ付き

大垣市

安田 悠人（小五）

あかとんぼぼくといっしょに山登り

大垣市

古川 颯人（小五）

ころもがえこの服少しさいさいよ

大垣市

桑原 璃名（小三）

入選

赤とんぼゆうやけこやけにおどりだす

大垣市

まつぐち ひなみ(小三)

うんどう会じめんをけつてまえに行く

大垣市

たに本 ゆいな(小三)

キンモクセイまるで恋の匂いがする

加茂郡川辺町

村田 果杏(中三)

遠くから甘い誘惑さつまいも

加茂郡川辺町

加藤 咲桜(中三)

紅葉の下で動かぬもやい舟

大垣市

本山 湊大(小六)

赤とんぼゆうひにそまって消えていく

大垣市

四ツ橋 颯希(小六)

ながればしおちたほしでたまいれだ

大垣市

つじ はると(小二)

雪うさぎ山にかくれてやすんずる

大垣市

杉山 歩花(小三)

ぐつぐつとおでんの具材にこむ夜

大垣市

石谷 颯志(小五)

星月夜見あげた空には夢の国

大垣市

浅野 花瑠(小五)

秋のせみシクシクシクと泣いている

大垣市

木村 美紅(小五)

じいちゃんのはたけのおいも一番だ

大垣市

やすだ まきと(小二)

コロナで出られなかつたうんどう会

大垣市

早ざき ひなと(小二)

夕ぐれに真つ赤に燃える彼岸花

大垣市

杉山 楓(小五)

ストーブでじいじが焼く芋世界一

大垣市

吉國 友菜(小五)

カマキリが光求めて家の中

大垣市

井口 禅(小五)

あかとんぼぼくの指にとまらない

大垣市

佐竹 詠宇(小五)

やきいもをたくさんかつてたべきれず

大垣市

たまる まつり(小二)

秋見つけいろんな秋を見つけたよ

大垣市

たかはし りん(小三)

もみじさんまだ落ちないのあとちよつと

大垣市

西科 とも生(小三)

選者吟

子の投げし石に切られて水澄めり

せいじ

小中学生の部

